

早稲田大学 グローバルCOE 「アジア地域統合のための世界的人材育成拠点」
調査研究支援スキーム 成果報告

所属 学年 氏名 松村 史紀

(2008年2月22日、政治学研究科で博士学位を取得し、博士後期課程修了)

日程 2008年2月24日 ～2008年3月4日

渡航地(国・都市名)

中華民国、台湾台北市

リサーチ目的

戦後アジア地域における冷戦秩序の形成を考察するに当たって、これまではアメリカ政府 国務省、陸軍省などの資料を中心に調査研究してきた。国民政府、中国共産党の一次資料も調査してはいたが、不十分な点があったため、今回のリサーチでは中国国民政府の戦後外交を分析する上で不可欠となる一次資料を調査することを目的にした。具体的には、国民党党史資料館で閲覧できる国防最高会議(政府の最高意思決定機関)関連の資料、中央研究院近代史研究所档案棟で公開し始めた国府外交部の档案、さらに国史館に保存されている蒋介石関連文書である「蒋中正文物」の革命文献、事略稿本を中心に資料の調査を進めることを目的とした。

研究課題

現在、アジア地域には「古い」秩序が残されながらも「新しい」変動が次々に姿を現している。「古い」のは冷戦期に形作られた秩序(米を中心とするハブ・スポーク型の安全保障秩序や南北朝鮮の分断、中台分断など)であり、「新しい」のは経済的相互依存など地域協力の広がりである。現在から将来にわたる「アジア地域統合」を予測・構想・実践しようとするとき、歴史的に形成されてきた地域秩序のあり方を理解することは不可欠である。

私の研究は、現在も残されているこの「古い」秩序の形成過程を国際政治学(外交史・国際政治史)のアプローチから分析することである。第二次世界大戦後、「戦後」秩序構想(戦勝国の大国間秩序と戦勝国による敗戦国の管理)がどのようにして崩れ、「冷戦」秩序(戦勝国間の対立)に変容していったのか。この国際政治のダイナミズムを米国、中国、ソ連という戦勝国の三大国の外交関係から研究している。

今回の支援スキームによるリサーチでは、戦後中国国民政府の外交戦略とその活動に関する一次資料を幅広く調査することを研究課題とした。アジアにおける戦勝国間の秩序は中国内戦とともに大きく瓦解していくことになるが、特にその重要な転換点となった45年から46年までの国府の外交を一次資料を利用してながら体系立てて分析した研究はほとんどない。そこで国府の外交文書、蒋介石個人の備忘録・日記を幅広く収録した「事略稿本」を中心に調査することで、「戦後」秩序の崩壊における国府の役割を再検討したいと考える。

成 果

以下、成果を二点に分けて列挙したい。一つは、資料調査における成果、もう一つは、研究業績としての成果である。

(1) 資料調査における成果。

第一に、国民党党史資料館（台北市中山南路 11 号 6 樓）において得られた資料上の成果である。当該資料館は、この数年間、資料が閲覧できない状態が続いていたが、昨年ようやく再公開が始まった。当該資料館は、国民党党員の各種書簡、党の会議記録、国防最高委員会（政府の最高意思決定機関）の関連公文書などを幅広く所蔵しており、当時の国府、国民党を研究する上で資料調査は不可欠である。具体的に閲覧を請求したものは、45 年末から 46 年にかけての国防最高委員会関連の資料で、「中央党政工作考察」、「参政会四期二次大会 關於国民大会及軍事国防建議」、「修復区五項緊急措置辦法」、「参政会四期二次会請採強行外交維護東北領土主權完整」などである。

第二に、中央研究院近代史研究所档案棟では、膨大な量にのぼる近現代国府外交部档案が収められている。そこで 45 年から 46 年にかけての外交部档案の一覧を目録で検索した。現在、外交部北美司、亜太司の閲覧が制限されているため、西亜司など当時の中ソ関係を分析する上で不可欠となる資料を中心に閲覧を請求した。主に中国東北、新疆を中心に展開された中ソ間の交渉過程、軍事政治情勢などに関する档案を調査することができた。

第三に、国史館には「蒋中正總統文物」として「革命文献」、「特交文電」、「事略稿本」などに整理された資料が館内閲覧できる。蒋介石関連の資料はいずれも複写できず、全てデジタル化された資料を閲覧するのみである。今回、膨大な書簡、公電を収録した「革命文献」、と蒋介石の備忘録に近い、電文記録、日記、大事記などが体系立てて収められた「事略稿本」を中心に研究調査した。主に、現在研究を進めている時期、45 年 8 月から 46 年 12 月までに焦点を絞り、資料調査した。これによって、国府の対米、対ソ、対中共政策に関する重要な資料が得られたことになる。

(2) 研究業績としての成果

上記で得られた資料を利用しながら、戦後米国の中国東北政策において伝統的な方針（「門戸開放」）が国共軍事対立の急展開を受けながらどのように終焉していったのかという問題を検討する論文を英文で執筆中である。特に、国府側の対米戦略に関する論述部分にこの資料調査の成果が大きく反映されることになる。この研究成果はグローバル COE のワーキングペーパーとして近々提出する予定である。

事業推進担当者確認（署名・押印）

メイン	天 辺 豊 藤原 初 枝	
サブ		

* A 42 枚以内。各項目のスペースはご自由に変更下さい。

